①　第１小委員会

■取り組みの概要

評　価　委　員：可児　力（座長）、勝野安和、森本幸恵、山崎孝生
対　　象　　部：健康福祉部、病院
評価実施事業数：163 事業
具体的な評価方法：今年度は、昨年度の未評価事業と評価済み事業の再評価を行いました。昨年度は健康福祉行政に対する認識と知識を多少なりとも勉強させて頂きました。今年度は委員会の役割である「今後の方向性や改善方法」「職員の意識改革の促進方法」などを各課（室）長等と担当職員の皆さんとディスカッションする中で知恵を出し合い、より高い効果と成果が出せるよう模索してまいりました。
具体的な評価方法については、健康福祉部及び病院の各課（室）長や実務担当職員とのディスカッションにより、事業内容の聴取及び意見交換を行いました。当小委員会においては、市から示された事務事業の評価シートの内容吟味とともに各課（室）長とのディスカッションに重きを置き、合計で 14 回の小委員会を開催し、そのうち１回については健康福祉部長及び局長と意見交換会を行いました。
なお、病院（市民病院、坂下病院）については、特定課題（第５小委員会）と合同でヒアリングを行いました。
評　価　の　視　点：厳しい財政状況、加速する少子高齢化をポイントとして念頭に入れ、中津川市の健康福祉がどうあるべきか、ディスカッションし合いました。

■報告

●職員に対すること
当小委員会においては、市民の目線で評価を進めるとともに、担当職員が日々感じている疑問を率直に明らかにしていただく中で、職員の代弁者になることも視野に入れてディスカッションを進めました。しかし、課（室）長の中には受け身の姿勢で、こちらからの問いにもなかなか答えられない方もいました。市民とともに新しい中津川市を作り上げていくならば、受け身ではなく積極的に市民と議論し合うことも大事です。

●事務事業評価に関すること
提示された事務事業はかなり細分化されているため、ある程度、関連事業としてまとめて評価しました。
ただ、入力項目において抜けている箇所、全然説明が出来ない箇所もあり、所属長はしっかり精査をして欲しいものです。健康福祉は国や県の制度に従うものが多く、廃止・縮小がしにくい面があります。しかし行政としては常に財政の厳しさを把握のうえ事業にあたり、また本当の弱者を救済しているかどうかチェックをしていく必要があります。

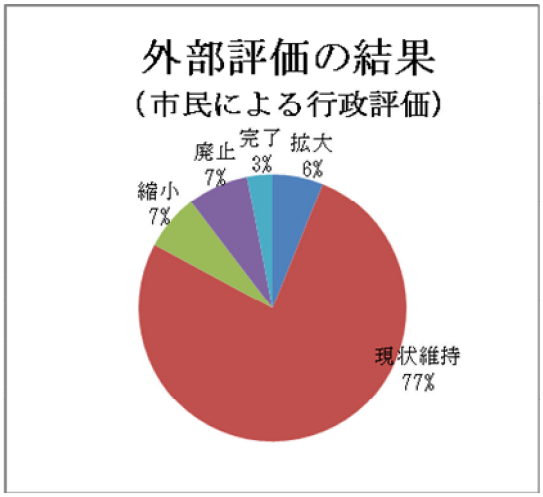
■第１小委員会　部署別外部評価一覧

（平成 19 年 7 月 9 日～平成 19 年 12 月 3 日）

部	課等	事業数	評価済み数	評価済みの内訳							
				拡大	現状維持	縮小	廃止				完了
							民間団体等に委ねる	整理統合して廃止	休止	廃止	
健康福祉部	高齢福祉課	33	33	3	17	10	1	0	0	0	2
	在宅介護支援センター	4	4	0	4	0	0	0	0	0	0
	介護保険室	10	10	0	10	0	0	0	0	0	0

部	課等	事業数	評価済み数	評価済みの内訳							
				拡大	現状維持	縮小	廃止				完了
							民間団体等に委ねる	整理統合して廃止	休止	廃止	
健康福祉部	障害援護課	32	32	1	29	0	0	1	0	0	1
	福祉相談室	5	5	0	4	0	0	0	0	0	1
	健康医療課	20	20	3	14	0	0	3	0	0	0
	川上診療所	7	7	0	7	0	0	0	0	0	0
	加子母歯科診療所	5	5	0	5	0	0	0	0	0	0
	蛭川診療所	12	12	0	12	0	0	0	0	0	0
中津川市民病院		9	9	3	6	0	0	0	0	0	0
坂下病院		5	5	0	5	0	0	0	0	0	0
総合事務所（総務福祉課）	坂下	5	5	0	3	1	0	0	0	0	1
	川上	2	2	0	1	0	1	0	0	0	0
	加子母	3	3	0	2	0	1	0	0	0	0
	付知	3	3	0	2	0	1	0	0	0	0
	福岡	2	2	0	1	0	1	0	0	0	0
	蛭川	4	4	0	2	0	2	0	0	0	0
	山口	2	2	0	1	0	1	0	0	0	0
合　計		163	163	10	125	11	8	4	0	0	5

■第１小委員会　評価分析



市民よる行政評価

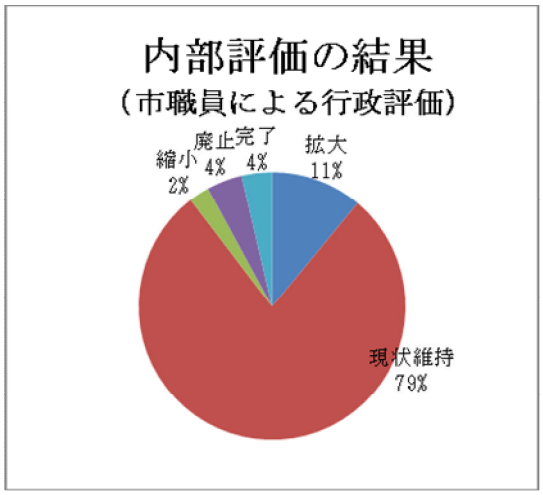
拡大:10 事業　　現状維持:125 事業

縮小:11 事業　　廃止:12 事業　　完了:5 事業

＊廃止 12 事業の内訳

「民間団体等に委ねる」が 8 事業

「整理統合して廃止」が 4 事業



市職員による行政評価

拡大:18 事業　　現状維持:128 事業

縮小:4 事業　　廃止:7 事業　　完了:6 事業

＊廃止 7 事業の内訳

「民間団体等に委ねる」が 6 事業

「休止」が 1 事業

②　第２小委員会

■取り組みの概要

評　価　委　員：古田三五（座長）、原　直尋、進藤幸代、田口好文
対　　象　　部：生活環境部、基盤整備部、水道部、消防本部
評価実施事業数：306 事業
具体的な評価方法：ヒアリングは全部門について事務事業総合情報シートを使用し、「昨年の課題に対してどのように取り組んでいるか」「基本計画に沿った進捗状況及び効果」「今後の計画」について聞き取りを行い、連携している事業は、一つの括りとして評価しました。
評　価　の　視　点：財政状況は厳しく、今後も多額の収入不足が見込まれていることから、特に、事業の必要性に着目した評価を行いました。また、現状維持と評価された場合についても、サービスの見直し、さらには、受益者負担の適正化など、効率性や公平性の観点から事業の改善に関する評価を行いました。
さらには、各総合事務所の事業についても個別で評価を行い、地域の実情に応じて判断しました。

■報告

●職員に対すること
民間への業務委託等で大幅な改善をされた部門の担当職員から「改善をすればするほど自分の首を絞めることになるのでは？」との心配が提示されました。当然の心配でありますが、この考えが予算を使いきること及び事業の縮小・廃止が出来ないことや業務の改善が進まないことに繋がります。
市役所で使われる費用は大切な税金であり、最も効果的に市民に役立つよう使用されるべきであることから、全ての職員には仕事の内容ややり方などを日々改善し、仕事に対する能力を高め、住み易い中津川市を築いてゆかれるよう期待します。

●事務事業評価に関すること
内部評価シートは、昨年に比べれば数値の信頼性、評価、所属長のコメント等判り易くなり、良くなってきていますが、未だ一部で人件費の算定がおかしい点や金額の記入間違い等が散見されます。内部評価制度そのものの費用対効果も考えて、内部評価シートは、ある程度の事業規模(例：10,000千円以上)に絞って実施し、同種類で細かいものは、統括部門を決めて予算方針を定めた方がより削減効果が期待できると思われます。
一例として、外部団体等への補助金・助成金・会費等は、非常に多種多様でありますが、中津川市の財政状況を考慮すると大幅な削減が避けられません。それらを担当部署毎で見直すよりも総務・企画部において、本当に市民に役立っているか、支出先が明確で目的に沿って効果的に使用されているか、天下り先の確保や時代遅れになっていないか、より重点的な使い道がないか等基本的な方針を定めてから担当部門と協議してゆくことが効果的と思われます。
今年度は、昨年度の外部評価の提言を受け容れられて、事業の統合・廃止や事業費の削減をされている事業が数多くあり、提言の効果がありました。来年度も今回の評価結果に基づいて更に改善されるようお願いします。

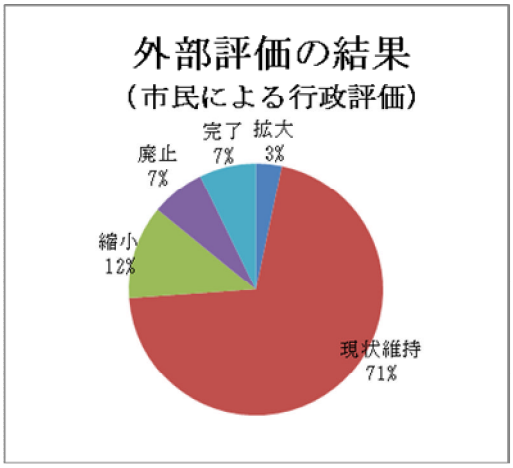
■第２小委員会　部署別外部評価一覧

（平成 19 年 7 月 5 日～平成 19 年 9 月 6 日）

部	課等	事業数	評価済み数	評価済みの内訳							
				拡大	現状維持	縮小	廃止				完了
							民間団体等に委ねる	整理統合して廃止	休止	廃止	
生活環境部	市民課	33	33	2	22	1	0	1	0	0	7

部	課等	事業数	評価済み数	評価済みの内訳							
				拡大	現状維持	縮小	廃止				完了
							民間団体等に委ねる	整理統合して廃止	休止	廃止	
生活環境部	環境課	7	7	0	3	1	0	2	0	0	1
	衛生センター	4	4	1	2	1	0	0	0	0	0
	環境センター	7	7	2	5	0	0	0	0	0	0
	ごみ減量推進室	9	9	1	2	2	1	0	0	2	1
	防災対策課	12	12	1	5	5	0	0	0	0	1
	生活安全課	8	8	1	4	2	0	0	0	1	0
基盤整備部	建設課	27	27	0	17	5	0	3	0	1	1
	管理課	6	6	0	6	0	0	0	0	0	0
	都市整備課	7	7	0	7	0	0	0	0	0	0
	用地対策課	9	9	0	7	2	0	0	0	0	0
	農林整備課	21	21	0	14	5	0	0	0	0	2
	建築住宅課	9	9	0	6	1	0	1	0	0	1
水道部	下水道課	8	8	2	6	0	0	0	0	0	0
	水道課	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0
	業務管理課	16	16	0	16	0	0	0	0	0	0
消防本部		28	28	0	13	11	0	3	0	0	1
総合事務所（基盤整備課 or 産業振興課）	坂下	31	31	0	25	0	0	3	0	0	3
	川上	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0
	加子母	6	6	0	5	0	0	0	0	0	1
	付知	6	6	0	6	0	0	0	0	0	0
	福岡	36	36	0	29	1	0	3	0	0	3
	蛭川	8	8	0	8	0	0	0	0	0	0
	山口	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0
合　計		306	306	10	216	37	1	16	0	4	22

■第２小委員会　評価分析



市民による行政評価

拡大:10 事業　　現状維持:216 事業

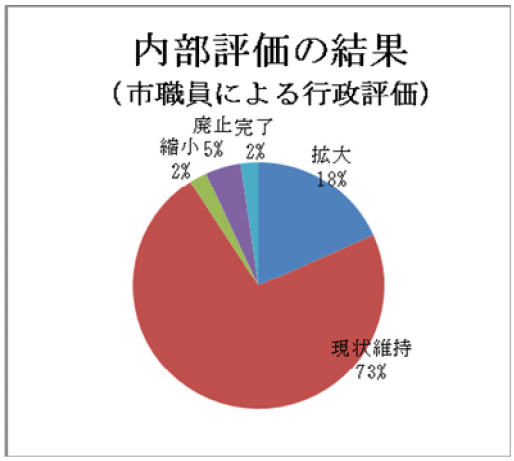
縮小:37 事業　　廃止:21 事業　　完了:22 事業

＊廃止 21 事業の内訳

「民間団体等に委ねる」が 1 事業

「整理統合して廃止」が 16 事業

「廃止」が 4 事業



市職員による行政評価

拡大:56 事業　　現状維持:222 事業

縮小:7 事業　　廃止:14 事業　　完了:7 事業

＊廃止 14 事業の内訳

「民間団体等に委ねる」が 2 事業

「整理統合して廃止」が 12 事業

③　第３小委員会

■取り組みの概要

評　価　委　員：倉野　仁（座長）、加地義弘、伊藤一正、安江里子
対　　象　　部：産業振興部、農業委員会事務局
評価実施事業数：141 事業
具体的な評価方法：ヒアリングは全部門について事務事業総合情報シートを使用し、「昨年の課題に対してどのように取組んでいるか」「基本計画に沿った進捗状況及び効果」「今後の計画」について聞き取りを行い、連携している事業は、一つの括りとして評価しました。
また前年度の評価の折に付則資料としていた施策ごとの事業一覧表をさらに発展させ、どこの地区でどのくらい経費がかかっているかをひと目でわかる資料(P. 17～18 参照)を活用しました。

評　価　の　視　点：産業振興部の所管する事業の評価を行うにあたり今年度は次のような 4 つのテーマを設けました。

１．補助金、助成金が公平に支給され、かつ事業に活かされているか。
２．観光協会の自立的運営ができるように取り組んでいるか。
３．農林畜産物等のブランド化を行い、産業をいかに活発化させていくか。
４．工業基盤の整備促進し新たなる外貨（収入）をどのように獲得するか。

これらについて着目し、担当課との事業ヒアリングを行いました。また、昨年度の視点であった　１．「多様性の中の統一」２．産業活性化施策　３．職員数削減への施策なども市職員の皆さんと省みながら、昨年度同様今年度も、事業評価はスクラップ事業を見出すばかりでなく、**ビルドアップするための提言**をしていくという考えのもと 141 事業全ての事業評価を行いました。

■報告

●農業、林業、畜産業について

この地域の将来を担う多くの事業が存在し、補助、助成金もかなり多く使われています。支給する意義を考え、それらの事業の費用対効果を確認の上、補助、助成金の終期設定を行い、きちんと検証することが重要であると考えます。また、中津川市の名を知らしめるような農林畜産物のブランド化を早急に促進することや、中津川市内にも多く存在する遊休農地の利用法を考え積極的に活用するなど農林畜産業の活発化に取り組んでいただきたい。

●観光全般について

交流人口増加の窓口となる重要なポストであると認識します。合併後、各地区に観光協会が存在しているが、観光事業全般として、多様性の中の統一を図っていただきたい。補助、助成については、限度額を設けて支給するなど、実行委員会等主催者側での市の経費負担の削減に努め、またそれらの支給に対しては、市として費用対効果をきちんと検証する姿勢が必要と考えます。

●工業振興について

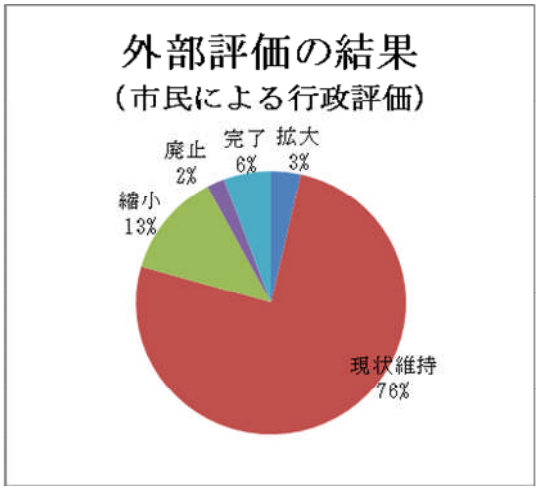
中津川市にとって経済的にも重要な施策であり、積極的に企業を誘致するための事業を推進していただきたい。企業を誘致するためには多くの部署等の調整などが必要と思われますが、それらをまとめ、中津川市として計画性を持って堅実に行動できる体制を強化し、たとえば「企業誘致促進プロジェクトチーム」を作るなど、市全体として責任の所在を明確にした一括検討できる体制を整えて取り組み、確実な成果をめざしていただきたい。

■第３小委員会　部署別評価一覧

（平成 19 年 7 月 5 日～平成 19 年 9 月 27 日）

部	課等	事業数	評価済み数	評価済みの内訳							
				拡大	現状維持	縮小	廃止				完了
							民間団体等に委ねる	整理統合して廃止	休止	廃止	
産業振興部	農業振興課	25	25	1	14	5	0	2	0	0	3
	林業振興課	18	18	0	14	2	0	0	0	0	2
	畜産振興課	12	12	0	12	0	0	0	0	0	0
	工業振興課	15	15	3	8	4	0	0	0	0	0
	商業振興課	10	10	0	7	3	0	0	0	0	0
	観光課	10	10	0	6	3	1	0	0	0	0
農業委員会事務局		4	4	0	4	0	0	0	0	0	0
総合事務所（基盤整備課 or 産業振興課）	坂下	6	6	0	6	0	0	0	0	0	0
	川上	8	8	0	7	0	0	0	0	0	1
	加子母	15	15	1	12	1	0	0	0	0	1
	付知	4	4	0	4	0	0	0	0	0	0
	福岡	5	5	0	5	0	0	0	0	0	0
	蛭川	5	5	0	4	0	0	0	0	0	1
	山口	4	4	0	4	0	0	0	0	0	0
合　計		141	141	5	107	18	1	2	0	0	8

■第３小委員会　評価分析



市民による行政評価

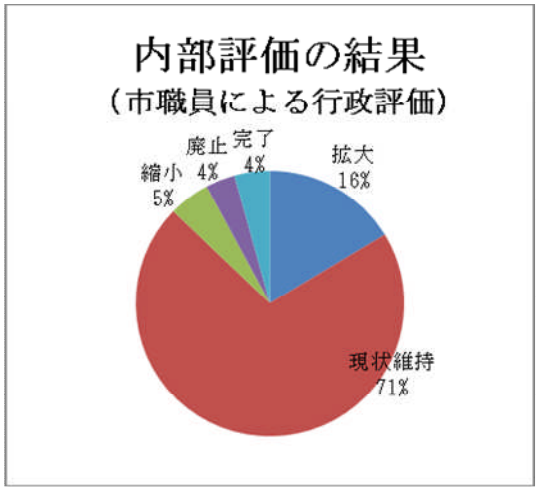
拡大:5 事業　　現状維持:107 事業

縮小:18 事業　　廃止:3 事業　　完了:8 事業

＊廃止 3 事業の内訳

「民間団体等に委ねる」が 1 事業

「整理統合して廃止」が 2 事業



市職員による行政評価

拡大:23 事業　　現状維持:100 事業

縮小:7 事業　　廃止:5 事業　　完了:6 事業

＊廃止 5 事業の内訳

「民間団体等に委ねる」が 2 事業

「休止」が 2 事業

「廃止」が 1 事業

【中分類】観光の振興
【小分類】地域の魅力づくりの推進

第3小委員会での評価結　拡大　現状維持　縮小　廃止　完了

【単位】事業費：千円　人件費：人日

事業/項目	市内全域	18年度事業費 / 人件費	中津	18年度事業費 / 人件費	山口	18年度事業費 / 人件費	坂下	18年度事業費 / 人件費	川上	18年度事業費 / 人件費	加子母	18年度事業費 / 人件費	付知	18年度事業費 / 人件費	福岡	18年度事業費 / 人件費	蛭川	18年度事業費 / 人件費
【大分類】商業と観光の振興											「国民の森」交流事業 ★	5,902 / 30						
【中分類】観光の振興			観光推進事業(中津) ★	6,956 / 360	観光推進事業（山口）	11,607 / 124	観光推進事業(坂下)	15,435 / 68	観光推進事業(川上)	937 / 160	観光推進事業（加子母）	182 / 68	観光推進事業（付知）	2,239 / 212	観光推進事業（福岡）	100 / 80	観光推進事業（蛭川）	663 / 62
【小分類】地域の魅力づくりの推進											村おこし事業（加子母） ★	500 / 14						
											加子母温泉スタンド運営事業	0 / 24						
★印は、負担金・補助金・交付金を支給している事業			自然公園等維持管理整備事業(中津)	4,803 / 112			自然公園等維持管理整備事業(坂下)	4,500 / 38	自然公園等維持管理整備事業(川上)	1,499 / 26	自然公園等維持管理整備事業（加子母）	1,768 / 46						
			根の上高原観光事業 ★	360 / 60			椛の湖宿泊施設整備事業	0 / 24										
	中山道整備事業	49,052 / 88		88														
			湯舟沢源泉管理事業（委託）	1,500 / 24					五木のやかた施設管理事業（川上）	3,926 / 24								
	道の駅維持管理事業 ★	9,133 / 54		34										20				
			けやき平施設管理事業	1,100 / 38														
									川上全村公園化事業(川上)	242 / 24								
			中津川市観光協会運営事業（中津） ★	8,493 / 208	馬籠観光協会補助事業（特別予算）（山口） ★	2,000 / 68	中津川市観光協会運営事業(坂下) ★	1,000 / 72							中津川市観光協会運営事業（福岡） ★	630 / 70	中津川市観光協会運営事業(蛭川) ★	405 / 86
					木曽観光連盟事業（特別予算）（山口） ★	5,104 / 46												
											加子母イルミネーション事業（特別予算）（加子母）	100 / 10						
			中津川夏まつり事業 ★	5,200 / 52	山口地域振興特別イベント事業（山口） ★	6,000 / 214	坂下地域振興特別イベント事業（坂下） ★	7,400 / 80	川上地域振興特別イベント事業（川上） ★	3,350 / 92	加子母地域振興特別イベント事業（加子母）	1,800 / 48	付知地域振興特別イベント事業（付知） ★	5,300 / 192	福岡地域振興特別イベント事業（福岡） ★	4,393 / 150	蛭川地域振興特別イベント事業（蛭川） ★	4,890 / 66
	観光関係協議会事業 ★	8,306 / 172		154										16				2
	小計	66,491 / 314	小計	28,412 / 1,130	小計	24,711 / 452	小計	28,335 / 282	小計	9,954 / 326	小計	10,252 / 240	小計	7,539 / 440	小計	5,123 / 300	小計	5,958 / 216

第3小委員会での評価結果　拡大　現状維持　縮小　廃止　完了

19年度以降廃止の負担金等・・・赤字

【中分類】観光の振興
【小分類】地域の魅力づくりの推進

【単位：千円】

負担金・補助金・交付金	事業名	合計	市全体及び中津	金額	山口	金額	坂下	金額	川上	金額	加子母	金額	付知	金額	福岡	金額	蛭川	金額
	「国民の森」交流事業	3,000									▲森林へのいざない実行委員会	3,000						
● 負担金	観光推進事業	300	■商工会議所（中山道かいわい認定）	300														
■ 補助金	村おこし事業（加子母）	500									■かしも学びの森協議会	500						
▲交付金	根の上高原観光事業	360	■根の上高原ｶｰﾆﾊﾞﾙ実行委員会　☆	360														
	中津川市観光協会運営事業(観光協会補助事業)	7,735	■中津川市観光協会　☆	3,700	■馬籠観光協会　☆	2,000	■坂下観光協会　☆	1,000							■福岡観光協会　☆	630	■蛭川観光協会　☆	405
☆印は地域振興特別予算	木曽観光連盟事業（特別予算）（山口）	2,437			■木曽観光連盟　☆	2,437												
	中津川夏まつり事業	5,200	■風流保存会	1,200														
			■中津川夏まつり実行委員会　☆	4,000														
	観光関係協議会事業	6,000	▲中津川百貨祭（じまん祭）　☆	6,000														
	地域振興特別ｲﾍﾞﾝﾄ事業　他	34,632			■馬籠ごへ一祭り　☆	6,000	■椛の湖さくら祭り　☆	800	■川上産業祭　☆	200	■加子母夏祭り　☆	1,500	■つけち「森林の市」☆	1,200	■ふくおかうきうき広場☆	243	■ひとつばたご祭　☆	750
							■与三郎まつり　☆	1,500	■ふるさと祭り　☆	3,150	■加子母夏祭り（ｲﾙﾐﾈｰｼｮﾝ）　☆	300	■つけち夢祭り　☆	2,700	■福岡ふるさと祭り　☆	2,700	■石彫のつどい　☆	2,430
							■木曽川ふるさと鮎つり大会　☆	400			■舞台峠ふれあいフェスタ☆（予算は1,000千円）	中止	■レディースクラフトフェア　☆	1,400	■福岡産業祭　☆	1,350	■MAIKA祭　☆	1,710
							■椛の湖そばの花祭り☆	1,500							■ふくおかﾄﾗｳﾄﾞｨｯｼﾝｸﾞｶｰﾆﾊﾞﾙ　☆	100		
							■フィールドフォーク　☆	1,500							■ふくおかあち歩き大会☆（予算は270千円）	中止		
							■花馬まつり　☆	800										
							■やさかふるさと花火大会　☆	900	■全村公園化事業　☆	1,499								
	小計	57,164	小計	15,560	小計	10,437	小計	8,400	小計	3,350	小計	2,300	小計	5,300	小計	5,023	小計	5,295

【作成者　行政改革推進室　中尾（内線438）】

④　第４小委員会

■取り組みの概要

評　価　委　員：鷹見幸久（座長）、田口一巳、神谷玲子、吉村堅太郎
対　　象　　部：文化スポーツ部、教育委員会
評価実施事業数：157 事業
具体的な評価方法：事業の選定にあたっては、①総コストが比較的大きいもの、②総コストは大きくないが評価対象としたいもの、③小分類のなかで事業を統合したほうがよいと思われるもの、の３つの観点からそれぞれ選定しました。
評　価　の　視　点：各事業に対してできるだけ具体的な評価、指摘を行いたいというスタンスに立ち、情報シートの記載内容の整合性や数値の妥当性、事業費の大きなものについてはその使途内訳などにもチェックをかけながら、職員とのヒアリングを通じて情報シートだけでは把握できない実務上の課題や問題点なども確認して、市民の目線から見た事業のあり方、職員の関わり方、改善に向けての提案など幅広く意見交換を行いました。

■報告

●職員に対すること
　すべての職員に共通することと思われますが、それぞれが複数の事業を担当しているなかで、個々の事業ごとにどれだけの労力をかけているかの把握、認識が十分ではありません。これは業務量を把握するための基礎データを算出するシステムができていないことによるものと考えられますので、業務量に比例する人件費への意識を高めてもらう意味からも、このための有効なシステムづくりの必要性を感じました。

●事務事業評価に関すること
　情報シートの記載内容にまだまだ不備な点が見受けられ、特に記載漏れなど初歩的なミスも目立っています。行政評価委員としては情報シートの内容で事業の評価を求められるわけですので、誤った認識による評価を防ぐためにも、基本的なことではありますが、しっかりとした内部評価を経た正確な情報シートが作成されることを切望します。

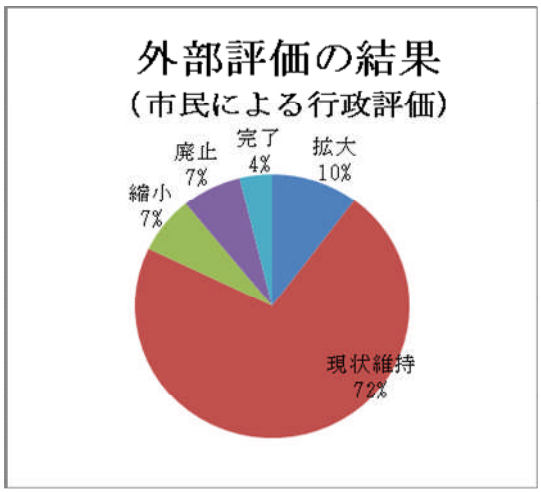
■第４小委員会　部署別外部評価一覧

（平成 19 年 7 月 31 日～平成 19 年 11 月 27 日）

部	課等	事業数	評価済み数	評価済みの内訳							
				拡大	現状維持	縮小	廃止				完了
							民間団体等に委ねる	整理統合して廃止	休止	廃止	
文化スポーツ部	生涯学習課	13	13	0	7	3	0	1	0	1	1
	図書館	7	7	2	3	1	0	0	0	1	0
	文化振興課	17	17	0	14	0	0	2	0	0	1
	東美濃ふれあいセンター	6	6	0	5	0	0	0	0	0	1
	鉱物博物館	6	6	1	5	0	0	0	0	0	0
	スポーツ課	16	16	1	9	3	0	1	0	1	1

部	課等	事業数	評価済み数	評価済みの内訳							
				拡大	現状維持	縮小	廃止				完了
							民間団体等に委ねる	整理統合して廃止	休止	廃止	
教育委員会	教育企画課	18	18	5	9	2	0	2	0	0	0
	学校教育課	25	25	3	20	0	0	2	0	0	0
	教育研修所	5	5	0	5	0	0	0	0	0	0
	阿木高校	6	6	0	6	0	0	0	0	0	0
	幼児教育課	14	14	0	13	0	0	0	0	0	1
	発達支援センター	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	子育て支援室	6	6	2	3	0	0	0	0	0	1
	発達相談室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合事務所（文化スポーツ課）	坂下	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0
	川上（総務福祉課文化スポーツ係）	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	加子母	4	4	1	3	0	0	0	0	0	0
	付知	4	4	0	3	1	0	0	0	0	0
	福岡	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0
	蛭川	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0
	山口	2	2	0	1	1	0	0	0	0	0
合　計		157	157	16	113	11	0	8	0	3	6

■第４小委員会　評価分析



市民による行政評価

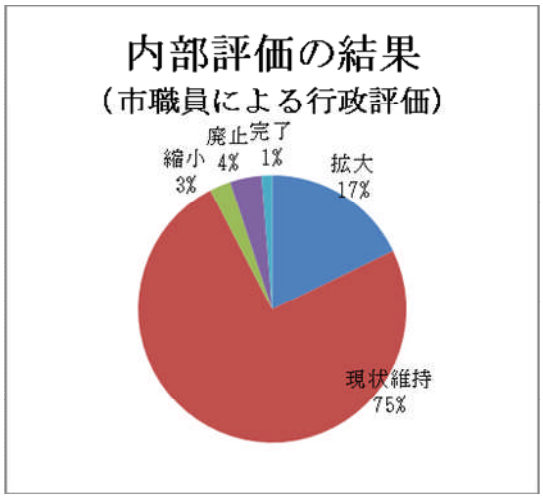
拡大:16 事業　　現状維持:113 事業

縮小:11 事業　　廃止:11 事業　　完了:6 事業

＊廃止 11 事業の内訳

「整理統合して廃止」が 8 事業

「廃止」が 3 事業



市職員による行政評価

拡大:28 事業　　現状維持:117 事業

縮小:4 事業　　廃止:6 事業　　完了:2 事業

＊廃止 6 事業の内訳

「休止」が1事業

「廃止」が 3 事業

⑤　第５小委員会

■取り組みの概要

第５小委員会は、事業評価の他に事業間・組織間の横断的評価を行うため、特定課題に取り組みました（**詳細は 125 ページより**）。

ここでは事業評価について記述します。

評　価　委　員：酒井錞司（座長）、曽我沖土、鈴木　力、山崎孝生
対　　象　　部：総務部、企画部、会計課、監査事務局、議会事務局
評価実施事業数：87 事業
具体的な評価方法：行政評価シートにより事業担当課長から事業概要及び効果について説明を受け、市の財政状況は依然として厳しく、今後も多額の借金が見込まれていることから、今後の事業の取り組みに着目し、業務の改善策に関する評価を行いました。
評価の視点ポイント：問題点を抽出、全市、光ネットワークに依る近い将来の IT 化、業務の簡素化、数値の分析などにより効果的に業務が執行できないかをポイントにしました。

■報告

ヒアリングを振り返って全般的な感想としては、昨年の事務事業評価シートの反省を踏まえて改善は進められているが、事業費及び人件費等の数値について将来を見込んだ精度の高い数値とはいえない。フルコストを正確に把握することで、事務事業の効率性が検討できる訳だが、コスト把握の点では、必ずしも厳密に取り組まれていたとはいえないのが現状です。特に、人件費の把握が曖昧で、正確なコストが見えないなどの問題があります。本来なら、人件費を日報によって管理するような民間並みのコスト管理を行なう必要があると考えます。

●職員の定員管理に対すること

職員削減の目標数値である 850 人体制を前提とした行政改革を推進することにより委託費等の増加が予測されます。職員を削減することで権限委譲を含めて減らない業務をどのように遂行するかが問題です。様々なシミュレーションを行い、最小の経費で最大の効果を上げるための行政改革を展開する必要があります。そのためには、日常的に評価シートを業務改善のツールとして活用することが前提です。また、市民にも分かりやすい目標や改善の方向性を示すことが必要です。総務部及び企画部は、人事及び財政の担当部局です。この両部門は連携を強化し、実質公債費比率 20.8%の県下ワースト２位と大変厳しい財政状況の中で舵取りをする重要な役割が求められています。この事を職員全員に認識させる職務を負っている事を夢ゆめ、忘れては（努力をしなければ）なりません。

●情報化の推進に対すること

情報化政策は、行政のスリム化と市民サービスの向上のために不可欠です。全体に最適化を行うためには、光ネットワークを活用したサービスの充実や高度化に取り組み、利便性の向上をサポートするため全庁で検討するべきと考えます。早急（2 年を目途）に全市に光ファイバー網を整備することで、業務改善が加速するとも考えられます。将来の長期プランニングを作成し、情報提供会議等を充実するべきです。

●税の徴収に対すること

公正・適正課税の観点から、未申告者に対する税務調査をさらに充実させ所得の把握に努めるべきです。税収入は財政の主要財源であり収納は不可欠な業務です。収納対策の強化を図って欲しい。また、回収不能の不能欠損処理の問題について会計上適正なのか早急に検討するべきです。

●監査に対すること

行政評価が実際決算監査になっています。監査の実効性を高めるため、補助金や委託費を支出している主管課の指導や監督、更に適正かつ効率的な執行と点検をするための改善が必要です。進捗管理や行政評価との連携を図り、事業の効果を将来の予算に反映するべきチェックシートを作成することが必要と考えます。

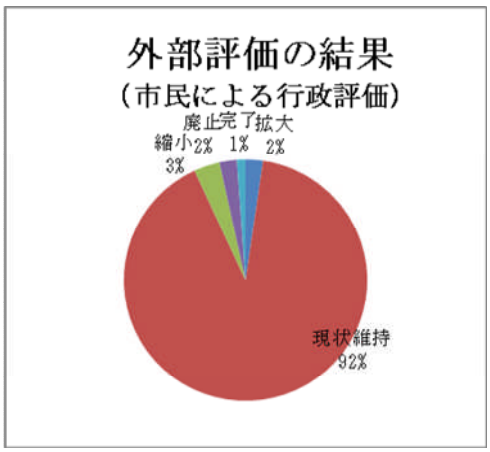
市の内部評価と委員会の外部評価はいずれも、事務事業の今後の方向性について結論を示唆しています。これを受けた改革・改善は、速やかに実践できるものと、困難が伴うものに区分されると推察されますが、たとえ、時間を要するものであっても、速やかにアクションを起こすことを求めます。

■第５小委員会　部署別外部評価一覧

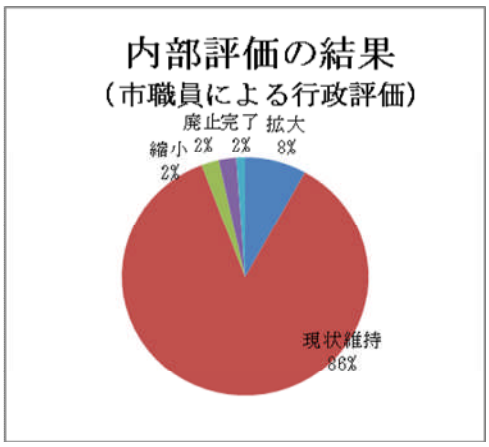
（平成 19 年 8 月 30 日～平成 19 年 11 月 2 日）

部	課（室）	事業数	評価済み数	評価済みの内訳							
				拡大	現状維持	縮小	廃止				完了
							民間団体等に委ねる	整理統合して廃止	休止	廃止	
総務部	総務課	6	6	0	6	0	0	0	0	0	0
	秘書課	3	3	0	2	1	0	0	0	0	0
	契約管財課	7	7	0	5	2	0	0	0	0	0
	進捗管理課	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	行政改革推進室	3	3	0	2	0	0	0	0	0	1
企画部	企画財務課	13	13	0	12	0	0	0	1	0	0
	交通対策室	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0
	税務課	6	6	0	6	0	0	0	0	0	0
	広報広聴課	8	8	0	8	0	0	0	0	0	0
	情報政策課	3	3	1	2	0	0	0	0	0	0
	地域振興課	8	8	0	7	0	0	1	0	0	0
	苗木コミセン	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0
	坂本コミセン	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0
	落合コミセン	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	阿木コミセン	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	神坂コミセン	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
会計課		3	3	0	3	0	0	0	0	0	0
議会事務局		5	5	0	5	0	0	0	0	0	0
監査委員事務局		8	8	1	7	0	0	0	0	0	0
総合事務所（総務福祉課）	川上	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	福岡	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
合　計		87	87	2	79	3	0	1	1	0	1

■第５小委員会　評価分析



市民よる行政評価
拡大:2 事業　　現状維持:79 事業
縮小:3 事業　　廃止:2 事業　　完了:1 事業
＊廃止 2 事業の内訳
「整理統合して廃止」が 1 事業
「休止」が 1 事業



市職員による行政評価
拡大:7 事業　　現状維持:75 事業
縮小:2 事業　　廃止:2 事業　　完了:1 事業
＊廃止 2 事業の内訳
「廃止」が 1 事業
「休止」が 1 事業